【 180 】

氏名	高 場 成 治
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博 乙 第 2821 号
学位授与の日付	平成6年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第4条第2項該当）
学位論文題目	**骨髄異形成症候群におけるmelphalan少量療法の検討**
論文審査委員	教授　太田　善介　　教授　岡田　　茂　　教授　辻　　孝夫

学位論文内容の要旨

骨髄異形成症候群（MDS）は多能性造血幹細胞の異常に基づく疾患である。MDS，なかでも芽球の増加するRAEB，RAEBtに対する有効な治療法はない。今回高齢者のHigh-risk MDSに対しmelphalan少量療法を施行した。症例はRAEB 6例，RAEBt12例で2㎎連日経口投与した。平均年齢は65.9歳であった。6例がCRを，1例がPR，4例がMRを得た。CR持続期間の中央値は14.5ヵ月であった。全症例において重篤な副作用は認められず，CR症例ではmelphalan投与中に骨髄抑制や汎血球減少は認められなかった。2例のCR症例について細胞表面マーカー（CD34，CD33，CD13）の変化を経時的に検査した。$CD34^+$細胞は投与開始2週目に速やかに減少し，$CD34^-CD33^+$細胞はmelphalan投与後4週間目に増加した。CRに至る臨床経過と細胞表面マーカーの検討より，melphalanによる異常造血細胞の分化誘導作用が考えられた。melphalan少量療法は高齢者におけるRAEB，RAEBtに対する有用な治療と考えられる。

論文審査の結果の要旨

本研究は高齢者のHigh-risk骨髄異形成症候群-(MDS）に対するmelphalan少量療法を検討したものである。症例はRAEB 6例，RAEBt 12例で2㎎連日経口投与した。平均年齢は65.9歳であった。6例がcomplete remissionを，1例がpartial response，4例がminor responseを得た。CR持続期間の中央値は14.5ヶ月であった。全症例について重篤な副作用は認められなかった。本治療法は高齢者におけるRAEB，RAEBtに対する有用

な治療と考えられる。これは臨床的に価値ある業績であり，よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。